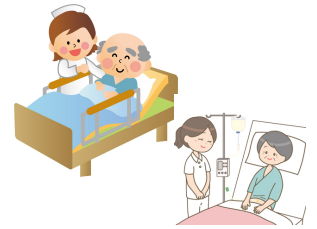


利用例 - 訪問看護との連携 -



小規模多機能ぼやあ樹では、毎月、地域の病院や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など、さまざまな機関の皆様よりご相談をお受けしております。そこで、実際にぼやあ樹へご利用となられたケースの中から、訪問看護と連携した利用例を紹介させていただきます。



Aさん(男性) : キーワード【**老々介護、ストマ(人工肛門)管理**】

高齢の夫婦(老々介護)で生活されているAさんは、疾病によりストマ(人工肛門)を造設することとなり、夫婦だけでは管理が難しく不安があるとの相談があった。しかし、自宅で夫婦一緒に過ごす時間も大切にしたいとの希望があり、小規模多機能と訪問看護が連携をして、夫婦のストマに関する不安を軽減しながら、日々の生活支援を実施することとなる。

	月	火	水	木	金	土	日
サービス	デイサービス	泊まり	泊まり	デイサービス	自宅 (訪問看護)	訪問 1日1回	訪問 1日1回
支援内容	<p>◎ストマ(人工肛門)の管理には、週2回のパウチ(※)交換と装着箇所の清潔保持が必要！</p> <p>【ぼやあ樹】週6日は小規模多機能のサービス(泊まり・デイ・訪問)を利用。 うち週2回の入浴支援に加え、週1回ぼやあ樹専属の看護師によるパウチ交換を実施。</p> <p>【訪問看護】週1回自宅で過ごされる日に、訪問看護の看護師によるパウチ交換を実施。</p> <p>(※)パウチ…腹部に装着しているストマからの排泄を受ける袋を</p>						



Bさん(女性) : キーワード【**家族同居、経管栄養**】

就労の息子(50代)と同居しており、お互いに在宅生活を希望している。しかし、息子としては日中自宅で1人になることの不安に加え、昼間の経管栄養投与に支援が必要となった。また、ほぼ寝たきりのBさんは移動への負担も大きいため、できるだけ自宅で過ごす時間を多く作りたいとの希望があった。そこで、小規模多機能と訪問看護が連携をして、自宅で過ごしたいという思いを中心に息子の不安解決となる支援の実施となる。

↓ぼ:小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹/訪看:訪問看護

	月	火	水	木	金	土	日
サービス	デイサービス	ぼ:訪問(朝・夕) 訪看:経管栄養(昼)	ぼ:訪問(朝・夕) 訪看:経管栄養(昼)	デイサービス	ぼ:訪問(朝・夕) 訪看:経管栄養(昼)	自宅 (必要時 訪問)	自宅 (必要時 訪問)
支援内容	<p>◎経管栄養投与は1日2回(昼・夕)。※夕と土日は基本的に息子が</p> <p>【ぼやあ樹】週2回(月木) デイサービス 入浴支援とぼやあ樹専属の看護師による管栄養を実施。 週3回(火水金)訪問サービス 朝と夕に安否確認やオムツ交換を実施。</p> <p>【訪問看護】週3回(火水金)自宅で過ごされる日に、昼分の経管栄養投与を実施。</p>						